

はじめに

この本のテーマは通貨である。とても古いが、改めてとても新しくなりつつあるテーマだ。そもそも、通貨とは一体何ものか。通貨は、いつ、なぜ、どうやって通貨になるのか。通貨を通貨たらしめる条件とは何か。

これらのことは、経済分析というものの永遠のテーマだと言っている。そして、常に新鮮なテーマでもある。なぜ、古いのに新しいのか。なぜ、永遠なのに新鮮なのか。通貨の正体を改めて追究するには、今が絶好のタイミングだと思う。

というのも、今、我々を取り巻く経済環境の中で、通貨というものが実に得体の知れない変貌を遂げていく可能性がチラチラみえてきているからだ。

このチラチラ模様の中で、特に目立ち始めているのが、ビットコインをはじめとするいわゆる「仮想通貨」だ。そしてチラチラというよりは、チカチカとあやうい明滅ぶりを示しているのが、「合成通貨」のユーロである。「電子マネー」と「仮想通貨」という二つの

概念が、我々の前で演じてみせる奇妙なロンドも、その行き着く先がとても気になる。

そうした中で、「従来通貨」すなわち国々の法定通貨群にも、実に奇妙なことが様々起り始めている。その一つがマイナス金利現象である。カネを借りるために、いくらカネを支払う必要があるか。それを示すのが金利だ。つまり、金利はカネの値段にほかならない。ところが、国々の金融政策がなにかと試練にさらされる中で、そのカネの値段にあえてマイナスの値をつけるというようなことも起り始めている。

後ほど詳しくみていくが、通貨の暗号化という現象も出てきた。こんな奇異な世界に踏み込んでいく中で、我々と通貨の関係は今後、一体どうなってしまうのか。

かくして、通貨的怪異現象があちこちで、そして様々な形でグローバル経済を覆いつつある。この状況が意味するところは何か。我々はこうした今日の通貨状況をどのように理解し、どのように受け止めればいいのか。

グローバル時代を通貨の観点から考える——。この本を通じて、この大それたテーマに挑んでみたいのである。かなりの大仕事になりそうだ。じっくりお付き合いいただければ誠に幸いである。

目次

第一章 バラと通貨はどう違う？

名前って何？

通貨にとっては名前が全て

元禄の改鑄——瓦礫だって通貨になる!?

通貨が通貨という名を失う時

人々の認知と国家の信用力

「政府紙幣」は信用されるか？

通貨の基本は「人本位制」

人々が仮想するから通貨になる！

ビットコインは架空の通貨

信頼関係がつくる仮想通貨

第二章 嘆きの通貨、ドルの行方

ドルの信用はいつまでもつのか？

ドルの起源をさかのぼる

イギリスからの独立の象徴としてのドル

英仏米の通貨戦争

休戦協定の重要な仕掛け

嘆きの通貨と化したドル

ドルが輝いていた時代

他国通貨に悩まされるアメリカ

ドル高を引き寄せるトランプ

入植者たちの奇想天外通貨

第三章 ユーロ その混乱の源

余命短きユーロ

国際経済のトリレンマ

ユーロ圏は何を諦めているのか

ECBに金融政策の自律性はあるのか

トリレンマすら成立しないグローバル時代

ユーロ誕生前史

政治的パニックがユーロを生んだ

静寂のオアシス——もしもERMが存続していたら

第四章 「仮想通貨」の仮装を暴く

マネーのマネをする「仮装通貨」

ビットコインの由来

ブロックチェーンは箱網システム

「偽装通貨」は金融民主主義の守護神か

怪しい魅力を失う偽装通貨

ワイルドになっていく銀行決済システム

なぜ中央銀行は法定通貨の電子化を目指すのか

ICOコインのバブルがはじける時

コインに羽根は生えているのか？

ビットコインの命運

デジタル化がもたらす全体主義

第五章 幻の通貨 バンコールが夢見たもの

暗号通貨とBIS（国際決済銀行）

幻の仮想通貨バンコール

通貨・通商戦争が招いた第二次世界大戦

通貨同盟なのか、清算同盟なのか

第六章

人民元は誰のための通貨？

バンコールの狙いは貿易戦争再発防止

キリギリスとアリの両成敗でデフレを避ける

バンコールは「みなし金本位通貨」

英米間の綱引きが生んだ国際通貨体制

頂上決戦の歴史ドラマ

IMFによるバンコール？

得体の知れない人民元

人民元はなぜ人民元なのか

摩訶不思議な管理変動相場制

人民元の足の長さ

人民元のジレンマとトリレンマ

人民元は通貨の王様になれるのか？

人民の通貨のはずなのに

第七章 SDRのフワフワ感

定義ができないSDR

SDRは通貨なのか？

世界的な通貨不信とSDR

SDRはなぜ「引き換え券」なのか

SDRは資産となるのか？

世界がSDRに恋をした時

IMFが世界中央銀行に変身する？

SDRの不思議な金利

流動性ジレンマから生まれる世界不況

流動性供給を選んだアメリカ

SDRは時代の狭間の通貨もどき

第八章 隠れ基軸通貨 「円」の本当の姿

はかない夢のような通貨の姿

翻弄されるだけが「円」なのか？

アジア通貨危機を振り返る

ヘッジファンドが犯人だったのか？

リーマン・ショックの火元は日本

隠れ基軸通貨としての円

第一章 バラと通貨はどう違う？

▼名前って何？

通貨の正体を見極める旅に出るに当たって、まずは準備が肝要だ。しっかり足固めをした上で出発しなければいけない。準備不足状態で、アタフタと旅立つのは危険だ。先走ってゴールへの最短コースを見定めようと焦るのも禁物だ。かえって、方向感覚を失うことになる。少々の道草や迷い道は恐るるに足らず。だが、準備不足はいけない。準備さえ怠りなければ、道草も迷路入りも、本当のゴールの発見に役立つことがある。

さてそこで、今回の旅に必要な準備の内容はどのようなものか。それは、ひとまず現時点で、我々が通貨というものについてわかっていることを改めてしっかりと整理しておく点である。

グローバル時代の通貨とは何かを見極めることが、今回の旅の目的だ。その目的を首尾よく果たすためには、今日までの展開の中で通貨を通貨たらしめてきたものをしっかりと見定めておく必要がある。通貨の基本を押さえずして、通貨の今はわからない。ここが準備の勘所だ。

通貨の基本とは何か。それを考えるに当たって、次のフレーズを皆様と共有させていた

だきたい。

「名前ってなに？ バラと呼んでいる花を別の名前にしてみても美しい香りはそのまま」
ご存じの方が多いだろう。シェイクスピア大先生の筆になる悲恋物語、かの『ロミオとジュリエット』（小田島雄志訳、白水Uブックス、一九八三年）の一節だ。

モンタギュー家とキャピレット家は宿敵同士だ。それぞれの一人息子ロミオと一人娘ジュリエットが一目惚れひとめぼの恋に落ちる。恋しい人は恋しい人。名前なんか関係ない。モンタギュー家のロミオであろうが、何家のロミオであろうが、私の恋人は私の恋人に変わらない。バラに託して、ジュリエットがその心情を吐露する名場面だ。

このジュリエットの恋人宣言と、通貨の基本との間に、どういう関係があるのか。ジュリエットの宣言から、通貨の基本の何が読み取れるのか。実は、とても重要なことが読み取れる。それは、通貨に関してはバラのようにはいかなないということである。

バラはバラという名前のおかげで美しいわけではない。バラはバラという名前だから香り豊かなわけでもない。誠にもって、ジュリエットさんのご明察のとおりだ。

バラという名前に意味はない。漢字で薔薇ばらと書けば、確かにちよっと素敵だ。ミステリアスな香りがしそうに感じたりする。だが、バラを薔薇と書いたからといって、実際に香

りに違いが生じるわけではない。バラではなくて、バスという名前になっても、バラの香りは変わらない。

▼通貨にとつては名前が全て

ところが、こと通貨に関して言えば、そうはいかない。通貨は、人がそれを通貨だと認定しなければ、通貨にならない。通貨という名前に、実に大いなる意味があるのだ。

通貨というものに関する限り、「名前なんてどうでもいい」というわけにはいかない。名前が全てなのである。バラはバラという名前がなくなっても、バラであり続ける。だが、通貨は通貨という名前を剝奪はくだつされれば、通貨ではなくなってしまう。

かつて、人間は貝殻を通貨として使っていた。人がそれを通貨と認定したから、貝殻は通貨となった。しかし、今日、貝殻は通貨ではない。人がそれを通貨だと認めなくなったから、通貨ではなくなった。

金きんという金属もそうだ。金は金だったから通貨になったわけではない。人がそれを通貨扱いするようになったから、通貨になったのである。今、金はもはや通貨ではない。資産としての価値はある。けれども、通貨として通用しているわけではない。

かくして、通貨と呼ばれなくなったものは、その特性になんら変化がなくても、通貨ではなくなる。通貨においては、名前が全てだ。

バラは、姿形が突然変異しない限り、いつでもバラであり続ける。だが、姿形が全く同じままでも、貝殻や金は、通貨と呼ばれなくなったとたんに、通貨ではなくなる。

逆の言い方もできる。バラの姿と香りをもたないものに、いくらバラという名前をつけても、誰もそれをバラだとは認めない。クマさんのぬいぐるみを持ってきて、「これはバラです」といくら主張しても、それは通用しない。「バラという名前のクマさんです」なら、なんとか受け入れてもらえるかもしれない。しかし、それでも、クマさんはやっぱりクマさんだ。バラと命名したことで、クマさんがバラに変身したことにはならない。

姿形をそれらしくしても、やっぱりダメかもしれない。本物そっくりの造花をつくったとしても、それは、やっぱりあくまでも作り物のバラだ。本物のバラとしては認知されない。

ところが、通貨は、通貨という名前さえついてしまえば、通貨になる。すなわち、クマさんであっても、バラであっても、それを人が通貨だとみなせば、立派に通貨として世の中に出ていくことができる。